

## 情勢認識の一致を図り、組織拡大を勝ち取る特別決議

J R発足から 31 年、私たち国労を取り巻く情勢は一変した。

今春闘で、東労組が「格差ベア永久根絶」の方針を掲げ、スト通告したことにより、東労組の唯一の拠り所であった「労使共同宣言」の失効が J R 東日本会社から通知され、蜜月と言われてきた関係が終焉した。それ以降、東労組からは脱退が相次ぎ、過半数を割る状況となった。

過半数労働組合が無くなったことにより、会社は、36 協定などの締結にむけて、社員代表選挙を告示し、各職場毎に選挙が行われた。

社員代表選挙は、多くの職場で、国労、東労組、未加入の三つ巴の選挙となり、国労は、各職場で少数であるものの、ほとんどの職場で組合員数を上回る得票を得て、8 職場で社員代表を勝ち取り、安全衛生委員にも国労が指名された。この事態が意味することを見なければならぬ。

私たち国労は、差別攻撃に屈することなく組織を維持し、まじめに仕事に取り組み、他労組の声もつかみながら労働条件改善にむけて、現場長要請を始め様々な取り組みを行ってきた。そして 2006 年の東日本会社、2008 年の貨物会社との一括和解以降、少しずつ会社の対応を変化させ、新規採用者の国労加入も 12 年連続で実現させてきた。

新規採用者で国労に加入した仲間は、全員が試験に合格し、主任、主務職にも合格し、助役発令者も出て来ている。また、アドバイザーや指導車掌にも指定されるなど、新採加入者自らが、国労差別が無くなっていることを証明してくれている。

また、一括和解以降、多くの J R 採用の仲間が国労に加入し、誰一人国労を離れることなく国労の取り組みを広げようと努力している。これが今の国労の最大の強みである。

これらの変化、取り巻く情勢の変化は、私たち国労にとって有利な状況であることは間違いない。

しかし一方で、東労組を脱退した未加入者は、労働組合に対しての嫌悪感や不信感を抱く声が多く聞かれる状況になっている。

また、未加入者が 7 割を占める状況の中で、各職場で社友会が発足され、労働組合に加入させない状況が作られてきている。しかし社友会は、社員の声を聞く場にはなっていない。

未加入者や社友会加入者に、労働組合の役割や必要性を訴えることは容易ではない。しかし、これまで国労が実践してきた姿を見せ、職場改善、労働条件改善のためには労働組合が必要であることをしっかり伝えていかなければならない。そして、これまで当たり前に取り組んできた運動に自信を持って、国労加入を呼びかけることでしか国労加入を勝ち取ることはできない。

3 月以降、様々な壁を払拭し、自ら国労を選択し加入した仲間が〇〇名となっている。その仲間もまた、国労の良さを伝え、次の仲間を作り出している。

「1 年あれば未来は変えられる。5 年もあるじゃないですか、一緒にもっと増やしましょう」。これが加入してくれた J R 採用者の国鉄採用者への声である。

加入してくれた仲間の声に答え、これまでの取り組みに自信を持ち、安心して働き続けられる職場を作るために、青年部、女性部、エルダー、嘱託、グループ会社、全ての年代、全ての職場で国労加入を大胆に呼びかけ、国労加入を勝ち取ろう！

以上決議する。

2018 年 8 月 25 日

国鉄労働組合東日本本部第 32 回定期大会